

令和6年度第7回長野市社会福祉審議会児童福祉専門分科会
(長野市版子ども・子育て会議)
会議要旨

- 開催日時 令和7年1月23日(木) 午後2時から午後3時30分まで
- 開催場所 長野市役所第二庁舎10階 講堂
- 出席委員 水口委員、田中(亜)委員、塚原委員、渡邊委員、塚田委員、北村委員
宮下委員、高橋委員、日台委員、阿出川委員、松田委員
- 欠席委員 和田委員、宮本委員、深澤委員、田中(宗)委員、中村委員
- 事務局出席者 島田こども未来部長、丸山こども政策課長、中村子育て家庭福祉課長、
宮下保育・幼稚園課長、石坂こども総合支援センター所長、
高野障害福祉課長、飽田移住推進課長、小池人権・男女共同参画課長ほか
- 傍聴者 1名
- 報道機関 1社

発言者	内容
	1 開会
事務局	2 委員紹介
会長	3 挨拶
事務局	4 議事 (1) 第三期長野市子ども・子育て支援事業計画の策定について 資料1-1、1-2、1-3、2に基づき説明
委員	《質疑応答》 妊娠届や出生届の受付時に諸制度の案内をしているのか。
事務局	妊娠届の受付時は、各保健センターで母子保健コーディネーターとの面談を実施しており、そのなかで母子保健サービスに関する情報提供を行っている。 出生届の受付時は、窓口で各種書類をお渡ししている。その後、生後3か月までに全ての世帯に保健師または助産師が訪問し、必要な制度の案内を行っている。
委員	パブリックコメントのなかにも、情報が伝わってこないという意見がある。 取組内容などが伝わるような分かりやすい情報発信ができればよい。 赤ちゃんと一緒に行けるお店の一覧があれば、子育て家庭が安心して生活できるまちづくりに繋がると思う。
委員	計画の存在を知らない市民が多いと思う。周知の方法を検討してほしい。 子どもの居場所づくりや相談窓口の設置を進めているのは分かるが、具体的にどこに行ったら何をすれば利用できるのか、より簡単に分かるとよい。

発言者	内容
	<p>パブリックコメントの周知に、小学生の保護者への一斉メールを使用した点はよかったと思う。</p>
事務局	<p>情報発信の方法は、今後の重要な課題であると思う。あのえっとの相談窓口等についても引き続き周知の方法を検討していく。</p> <p>今回、関係団体への働きかけや保護者向けメールを使って周知したこともあってか、71件のパブリックコメントをいただくことができた。</p>
委員	<p>子育て期のお父さんに対して、相談窓口の拡充などのより細やかな支援が今後必要になってくると思う。マタニティセミナーの実施（資料1-1の15番）のほかには、何か策はあるか。</p>
事務局	<p>支援センターや子育て広場では、気軽に相談しやすい雰囲気づくりや利用者同士がお話できる機会を設けている。指定管理者とも相談しながら、引き続き機会の拡大や内容の充実について検討していきたい。</p>
事務局	<p>現在、市内2か所のこども広場でマタニティセミナーを実施しており、大変好評をいただいている。来年度に向けては、清泉女学院大学で開催しているペアレンティングセミナー事業に市も協力できないか話し合いを進めている。</p>
委員	<p>長野市内には、教育学部や幼児教育を学べる大学がいくつもある。そういった教育機関とも積極的に連携していくという視点が計画に盛り込まれているとよい。</p>
事務局	<p>市内それぞれの教育機関に強みがあると思う。今計画の策定にあたって、教育委員会などとも連携してきた。今後も計画の実行・見直しの過程で連携を深めていきたい。</p>
委員	<p>新しい事業に関する情報発信は活発に行われるが、基本的な子育て情報についても継続的に発信される必要がある。報道関係の皆さまにもご協力いただきながら、広く周知していくことが重要である。</p>
事務局	<p>先程から皆さまにご指摘いただいているとおり、情報発信の大切さを改めて認識している。子育てガイドブックや市の公式LINEなどのSNSといった様々な情報発信ツールそれぞれの特性を考えながら、周知に努めていく。</p>
委員	<p>乳児期のお母さんたちのなかには、ネット上に飛び交う情報によって逆に不安を覚えてしまう方も少なくない。保健センターでは、保健師や助産師に相談できると思うが、もっと気軽に相談できる場があれば心の支えになると思う。</p> <p>資料1-1の10番、産後ケアへの意見のなかに、「産後ケアを生業としたい助産師・看護師は数多くおりますが」とある。もしそのようなニーズがあるのであれば、産後ケアを定期的な相談場所として検討してほしい。</p>

発言者	内容
事務局	<p>新生児訪問は、市の保健師以外にも、産後ケアに携わっている助産師や看護師にも委託しており、そこで相談を聞いてもらっている。</p> <p>産後ケアについては、現在国が力を入れて推進しているほか、来年度からこれまでの国の補助に加えて、県も財源を確保してくれることになった。</p> <p>お母さんに寄り添い、不安を解消していくため、より多くの方に産後ケアを使っていただけるような仕組みづくりに注力していきたい。</p>
委員	<p>子育てに対して夫婦で考えて取り組むようになってきているのは良い傾向だと思う。しかし、不登校の子どもを持つ家庭と接すると、お父さんの理解が足りていないと感じる。加えてお父さん自身も困っていると感じる。</p> <p>子どもが小さい頃から、お父さんにも相談できる家庭環境が整っていれば、登園渋りや登校渋りが起こった時にお母さんだけが抱え込むということがなくなると思う。</p>
事務局	<p>今回の計画策定に向けたアンケート調査のなかで、お父さんの育休取得率などは上昇していて、お父さんの育児参加への関心が5年前と比べて相当増していることがデータの的にもわかる。同時にお父さんの悩みも増えている。</p> <p>不登校の場合は、子どもだけの支援でなく親子を含めた支援が必要と考えている。情報発信の方法や相談窓口の使いやすさを意識しながら、お父さんが相談しやすい環境をつくっていきたい。</p>
委員	<p>資料1-1の12「発達障害の子どもが幼稚園に適応できず退園した」とあるがこういった状況を市は把握していて、何かフォローはしているのか。</p>
事務局	<p>具体的なケースが判別できないため、明言できないが、にこにこ園訪問などを通じて、「どういう様子か」「どういった特性があるか」といったことを確認しながら、支援・ケアしていくことになると思う。</p>
委員	<p>情報発信のツールには、紙ベースのものや広報的なもの、リーフレット、WEB、SNSなど様々な媒体があるが、発信される内容がどの媒体を見てもほとんど同じ場合がある。</p> <p>世代やニーズに合わせた情報発信を行うことで周知に繋がると思う。人々の活字を読んで理解する能力が低下していることも踏まえ、情報発信の方法をツール毎に対策を立てて多面的に行ってほしい。</p>
事務局	<p>ニーズや対象者に合わせた情報発信が大事だと認識している。</p>
委員	<p>資料2の67ページ「放課後子ども総合プラン」について、「希望児童の受け入れを全小学校区で実現することを目指します」とある。利用を希望する障害のあるお子さんに対して、具体的な対応・体制があるのか教えてほしい。</p>

発言者	内容
委員	<p>「放課後子ども総合プラン」事業を受託しているため、事務局に代わりお答えする。</p> <p>障害の有無や家庭状況を理由に預かりを断ることはない。施設内での過ごし方も、集団行動を強制することはなく、自由に選択してもらっている。そのために、職員を追加で配置する加配や、障害特性に関する専門知識を持った指導主事や学校心理士、支援員などの専門の先生の配置を必要に応じて行い、対応に当たっている。</p>
事務局	<p>医療的ケアが必要なお子さんの対応も現在行っている。</p>
委員	<p>資料2のような分厚い冊子から、目的の施策や事業を見つけるのは難しい。どのページに何が書かれているか、一目でわかるような工夫があればよい。</p>
事務局	<p>資料2は全てを網羅する内容になっているが、今後は概要版の作成も予定している。サービスについてまとめた子育てガイドブックも作成している。分かりやすい内容になるように努める。</p>
事務局	<p>(2) 令和7年度 長野市の保育所等保育料（利用者負担）について 資料3に基づき説明</p> <p>《質疑応答》 なし</p>
事務局	<p>(3) こども誰でも通園制度の実施園の認可について 資料4に基づき説明</p> <p>《質疑応答》</p>
委員	<p>国の方針が定まっていない状況ではあると思うが、例えば利用時間の上限や開所時間について、国の基準を上回る基準を市で設定することができるのであれば、様々なニーズに対応できるのではないか。</p>
事務局	<p>試行的事業を実施するなかで、利用時間の上限や開所時間に対する要望をいただいている。国から詳細が示されていないため、具体的なことは明言できないが、サービスの拡充について検討していきたい。</p> <p>まずは令和8年度の本格実施に向けて、関係各所と相談しながら、準備を進めていく。</p>
事務局	<p>(4) 保育所型・幼稚園型認定こども園の認定の報告について 資料5に基づき説明</p>

発言者	内容
<p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>《質疑応答》</p> <p>保育園・幼稚園の認定こども園への移行が増えている。保護者にとっては選択肢が増えることになり、個人的には望ましい傾向に感じるが、少子化が進むと、園同士で子どもを奪い合うことに繋がりがねない。</p> <p>基準を満たす園はこども園として今後も認定を進めていくのか。自治体によっては認定こども園への移行を認めていないケースもあるらしいが、市の方向性をお聞きしたい。</p> <p>各園から移行に関しての相談があれば、必要な計画や手続き、施設の整備などを一緒に考えている。移行を認めないというようなことはない。</p> <p>今後、子どもの数が減っていくなかでも、園の定員や施設の整備、保育士の確保なども含めて相談しながら一緒に考えていければと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>5 その他</p> <p>「誰もが自分らしくワクワク働くためのNAGANO働く女性大会議」の紹介</p>
	<p>6 閉会</p>